

令和7年度秋田県放課後児童支援員等認定資格研修 研修レポート抜粋

(誤字脱字等については校正しているため、原文と異なる場合があります。)

<県央会場>

科目 ⑩障がいのあるこどもの育成支援

- ◆ 特別支援学級のこととはあまり聞く機会がなくとても丁寧に一人ひとりに合わせて教育を行っているということに驚いた。インクルーシブ教育の大切さやそれを行うための合理的配慮があることを学んだ。保護者との連携、子どもとの信頼関係など、障がいがなくとも共通する大切なことで、違う分野で学べてとても良かった。子ども一人ひとりに対するいろいろな面での連携などもとても参考になった。
- ◆ 今回の研修で心に残ったのは「合理的配慮」についてです。これは一人ひとりの特性に合わせた配慮であり、例えばタブレットで自分の意志を伝えたり、ヘッドホンで敏感な音に対応したりするなど、学びやすさを支える方法だと分かりました。また、資料の図で示されていたように、同じ扱いが必ずしも公平ではなく、環境を整備することの大切さを実感しました。今後は、小さな工夫でも子どもたちが安心して生活できる環境作りを実践していきたいです。
- ◆ 障がいによって差別されない、地域社会の中で包み込まれるような支援が受けられるよう障がい者の権利に関する条約が定められている。障がいのある者となない者が共に学ぶ仕組み、インクルーシブ教育システムの理念をもとに、合理的配慮が必要とされていることを学びました。保護者との関わりは、職員の方向性を一致させ保護者には身近なエピソードを伝えるなどして、信頼関係を築いていくことを学んだので、これからの親との関わりに役立てたいです。
- ◆ 本科目を通して、秋田県の児童生徒数が年々減っている実態を知った。しかし、特別支援学校に通う生徒数が増加傾向であることも理解した。また、障がいに対する考え方が個人モデルから社会モデルに変化しつつあることを知り、とても良いと感じた。保護者との関わり方の部分も分かりやすく、ぜひ参考にしたいと思った。今まで様々な研修を受けてきたが、連携についてよく出てくるので、連携がいかに重要なことか深く理解できた。
- ◆ 今回は障がいのある子どもの支援について学びました。体感的に障がいのある子どもは増えていると感じていましたが、実際、秋田での障がいのある子どもは小中合わせて500人以上も近年で増加していることに驚きました。それぞれの学校独自での指導の導入も増えてきているので、それに合わせた対応ができる指導者も今後増やしていかなければならず、課題も多くあると感じましたので、連携して子どもを支えていきたいです。